

令和6年9月1日（毎月1回1日）発行 昭和43年1月10日第3種郵便物認可

2024 No. 910

9 September

みちしるべ

MICHISHIRUBE



## Contents

弱い時にこそ／福井雄一.....	3
死について／遠藤祥基.....	4
著名人と聖書 第15回 ウィリアム・メリル・ヴォーリス／古賀敬太.....	8
コスパ、タイパの時代に思う／広本研一.....	12
詩 人生のあらし／M・中野.....	15



☆当月号および過去1年分のみちしるべを、電子書籍版にてご覧頂けます。 <https://e-michishirube.com>

## 弱い時にこそ



残暑はまだまだ厳しいですが、暑い日はつい冷たいものばかり口にしてしまいます。ざるそば、コーラ、アイス……。そして突然やってくる腹痛。

私がお腹を壊した時にふと思いつく、ある友人との会話があります。

(私)「〇〇は、神様っていると思う？」

(友人)「お腹が痛い時は祈ったりするよ。」

彼のように、はつきりと信仰をもっていない人でも、思わず神に祈ったという経験が一度や二度はあるのではないのでしょうか。本当に弱ってしまったとき、人は神にすがるようにできていると思うのです。

ただ、よっぽどのことでない限り、大抵のことは「自力でなんとかしよう」と考えるものです。自立が基本の世の中です。「これができません」と弱さを見れば「そんなこともできないのか」と責められるかもしれません。見下されるかもしれません。

ん。自分の欠点や弱さを認めるのは、勇気のいることだと思えます。

しかし、弱さを素直に認められれば、他の人にその弱さを補ってもらうことができます。優しい言葉をかけてもらえるかもしれません。

パウロというクリスチャンはこのように語りました。

「キリストの力が私をおうために、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。・・・私が弱いときにこそ、私は強いからです。」

(コリント人への手紙第二・12章9、10節)

パウロは悩み苦しみのどん底でキリストの不思議な力を経験し、力強く立ち上がることができました。自分の弱さをさらけ出すとき、神様が優しく補ってくださいます。私たちの傷ついた心が、キリストの愛で満たされるとき、生きる力が湧いてくるのです。フランスの科学者パスカルは、「人の心には神のかたちをした空洞がある」と言いました。私たちが造られた神様こそ、私たちの弱さを本当に埋めることができる、強くすることができるとお方なのです。

# 死について

遠藤 祥基

人生において、最も不幸なことは何でしょう。それは私たちが死ぬということです。人生において、最も確かなことは何でしょう。それも私たちが死ぬということです。

与えられた人生を、思う存分楽しもうと考える人は少なくないと思います。趣味に没頭する人もいるでしょう。あるいは旅行を計画する人もいるかもしれません。

しかし死を目前にした時、果たしてそこに本当の

満足や平安はあるのでしょうか。もし、あなたが明日死ぬとしたらどう過ごされますか？「明日は死ぬのだ。さあ、飲み食いしようではないか」とお考えになりますか？

不幸な死は、人生の終わりに待ち構えています。私たちは皆、確実に死にます。どんなに労苦して、富と地位と名誉を築き上げても、必ず死ななければなりません。それが人間の悲しい結末です。

自分の好きな事をして過ごす時、一時の死に対す



る不安を紛らわせることができるかもしれないが、その夢のような一時から醒める時、どうしようもない不安が瞬く間に襲います。そうして不安から逃がれるように快楽を求めていき、騙し騙しのうちに生涯を終え、死を迎えるのです。

結局のところ、死に対して不安なく臨むためには、死そのものの問題と真摯に向き合い、答えを見出す以外ありません。

さて、私たちはどうして死を恐ろしいものと捉えるのでしょうか？病氣や事故、自然災害等によって死を意識したことのある人と、そうでない人とは感じ方に程度があるかもしれませんが、やはり死は怖いものです。自殺志願者の多くが未遂で終わるのもそのためでしょう。

「死ぬのが怖い」と感じる理由の一つは、「死後のことがよく分からないから」、より正確に言うくと、「人は死んで終わりなのではなく、その後によくない何かが待ち受けている」と無意識のうちに知っているからだと思えます。

人は死んで、無になるわけではありません。死ぬのが怖いと感じる正体も、聖書は明らかにします。

「人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている」

(ヘブル人への手紙9章27節)

「死後にさばきを受ける」、これが、死ぬのが怖いと直感的に感じる理由に他なりません。

死後のさばきとは、俗に言う地獄のことです。

しかし中には、「仮に地獄に行くとしても、皆がいるのであれば大したことはない」と考える人もいます。皆がそこにいるからといって、自分の苦しみが軽減されるわけでもなく、地獄から救われるわけでもありません。そこに大勢の人がいようと何の助けにもならないのです。

死は、たましいが消滅するということでもなく、苦痛を感じない体になるということでもありません。肉体とたましいが分離することを聖書では「死」

と定義しています。地上で持っていた欲望や感覚は死後も存在します。

地獄の中では生きていた時のことを思い出しては、満たされない欲求を満たそうと悲痛な叫びを上げることになるでしょう。そこにあるのは消えることのない炎があるだけです。

主イエスはその実例を挙げました。ある金持ちが死に、地獄の苦しみの中にある時、彼は天国にいる父祖アブラハムにこう言いました。

「父よ。それではお願いですから、ラザロを私の家族に送ってください。私には兄弟が五人いますが、彼らまでこんな苦しい場所に来ることがないように、彼らに警告してください。」

(ルカの福音書16章27、28節)

ラザロとは、生前彼の家の前にいた乞食であり、彼は金持ちとは違い、天国へと行けたのです。しかしアブラハムは、金持ちに対して、生きている時

に聖書の語ることに耳を傾けない人は、たとえ死人がよみがたっても、その語ることを信じることはしない、と言つて彼の願いを退けました。(同31節)

もし今地獄に、子を持つ父親がいるならば、自分の子どもがこんな所に来ないように叫んでおり、もし妻に先立つた夫がいるならば、やはり生きている妻が、自分と同じようなさばきに遭わないように懇願しているでしょう。

ですからイエスはこのことについて、次のように言及しています。

「もし、あなたの手があなたのつまずかせるなら、それを切り捨てなさい。両手がそろつていて、ゲヘナ(地獄)に、その消えない火の中に落ちるより、片手でのちに入るほうがよいのです。・ゲヘナでは、彼らを食らうつじ虫が尽きるものがなく、火も消えることはありません。」

(マルコの福音書9章43、48節)

どうか、この問題を単なるキリスト教の死生観と

してではなく、個人的な問題としてお考えになってください。

主イエス・キリストが愛の涙を持って、時に寝る間も惜しんで、この地獄から逃れるように教えたのも、その恐ろしさをよくご存じだったからです。

■ イエスはこのようにも言われました。

「狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広く、そこからはいって行く者が多いのです。いのちに至る門はなんと狭く、その道もなんと細かいことでしょう。そして、それを見出す者はわず

かです。」(マタイの福音書7章13、14節)



全力でこの狭い門を目指して、地獄から逃れようではありませんか。大勢で危険な死の道に行くよ

りも、一人でも安全ないのちの道に行くべきです。

その炎から逃れる道はただ一つ。罪を悔い改め、キリストを自分の救い主と信じることです。イエスご自身、こう言われたからです。

「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもと(天国)に行くことはできません。」

(ヨハネの福音書14章6節)

ぜひ、死の問題と真摯に向き合い、聖書をお読みになって、あなた自身のためにも、あなたより先に亡くなった大切な人々のためにも、キリストを自分の救い主と信じる方になってください。そして平安な気持ちを持って、一生を送ることができますように。

# 著名人と聖書（第15回）

古賀敬太

ウイリアム・メリル・ヴォーリズ（1880—1966）



## ヴォーリズの成したこと

メリル・ヴォーリズという名前を皆さんはご存知でしょうか。建築に興味がある方は、ヴォーリズの設計による有名な建物をご存じかと思えます。大同生命ビル、神戸女学院、関西学院、国際基督教大学など千あまりに及んでいます。

また常備薬のメンターム（メンソレータムと同製品）を買われたことがあるのではないのでしょうか。病院関係者の方は、結核患者を収容するために始まった近江療養院（サナトリウム、現在のヴォーリズ記念病院）を知っておられると思います。その後老健施設やホスピスも建設され、今日に至っていま

す。私の母も一時ヴォーリズの老健施設にお世話になったことがあります。

またヴォーリズ学園として幼稚園、中学校、高等学校が存在します。こうした現在ある近江兄弟社の様々な活動、設計・建築、薬の販売、医療そして教育活動は、ウイリアム・メリル・ヴォーリズによって始められ、100年以上も続けられ今日に至っています。

## ヴォーリズの来日目的

ヴォーリズが日本に来た動機は、イエス・キリストの福音を日本人に伝えるためでした。そしてこの情熱は彼の生涯を通して変わりませんでした。



彼は、アメリカのカンザス州のレブンワースの郊外で、父ジョン・ヴォーリス、母ジュリア・ヴォーリスの長男として生まれますが、母は生まれてくる子供を宣教師にしようと熱心に祈っていました。

彼はコロラド大学に進学し、在学中にカナダのトロントの「海外宣教学生ボランティア運動」の大会に参加した時に、中国への宣教師ハワード・テラーの話を聞いて海外宣教を決意します。そして、米国のミッシヨン（伝道団体）から派遣された宣教師としてではなく、いかなる財政的な後ろ盾もない一介のクリスチャンとして、極東の地日本にやってきました。

### 八幡商業学校

日清戦争が続いている1905年1月に単身日本に来て、近江八幡の「滋賀県立商業学校」（現在の県立八幡商業高等学校）の英語教師として働き始め、家でバイブルクラスを開いて福音を伝え始めます。

他に膳所中学（現膳所高）や彦根中学（現彦根東高）でもバイブルクラスを始め、多くの生徒が集い

ました。バイブル・クラスが始まると、構内で賛美歌の合唱が聞こえるようになり、多くの学生が小型の聖書と賛美歌を制服のポケットに入れて登校したそうです。生徒の中には、イエス・キリストを信じ、クリスチャンになる者が多数起こされます。

そしてキリスト教に反対する生徒たちから迫害が起りますが、後にヴォーリスの片腕となる吉田悦蔵は、「キリストとヴォーリス先生は、どんなことがあっても棄てられない。死んでも。」と覚悟して、「神さま、私を殴ろうとされている者たちの心を静めて、こんなことをしない人にしてやってください。そしてこの者たちの過ちをゆるしてやってください。」と祈りました。

バイブル・クラスの生徒たちも、迫害する者の救いのために祈った結果、彼らからもイエスを救い主として信じる人々が起こされてきました。

しかし、キリスト教が広まるのを警戒した仏教寺院や仏教徒による圧力は日増しに強くなり、ヴォーリスは1907年3月に八幡商業学校を解雇されます。彼が近江八幡に来てから解職されるまでの約2

年間に、約31名の生徒がイエス・キリストの十字架の救いを信じて、バプテスマを受けました。

その際ヴォーリズは、次のように述べています。

「2年前に私が日本に上陸当初、東京の宣教師が、『滋賀県は福音宣教の不可能な土地であるから、もし2年間に一人でも受洗者が出たら、奇蹟である』と予言したことを思いあわせて、感激に堪えない。」  
ある宣教師がヴォーリズに、どうしてそのような働きができたのかと聞いた時に、彼はこう答えています。「その説明は一句で足りません。生徒一人一人を自分のように愛することです。」

### 琵琶湖での伝道

彼は、1914年に琵琶湖に伝道船「ガリラヤ丸」を浮かべて、琵琶湖の西北部の堅田や今津にキリストの福音を伝え、伝道所を設立しました。ヴォーリズは、イエスがガリラヤ湖で弟子たちと一緒に舟で対岸に行かれて伝道し、多くの群衆が殺到した光景を念頭に置いていたことでしょう。

以前、琵琶湖博物館でイスラエルのガリラヤ湖と

滋賀県の琵琶湖を比較した展示を見たことがあります。ガリラヤ湖は、ヘブル語で「キネレテ湖」と言いますが、これは「堅琴」を意味するキノールに由来しています。

### ヴォーリズの結婚と日本への帰化

彼は、1919年6月39歳の時に、3歳半年下の華族である一柳満喜子（ひとやなぎまきこ）（1884—1969）というクリスチャン女性と結婚します。彼女は、ペンシルバニア州にある、名門女子大学のプリシモアカレッジに留学していますが、そこは津田梅子（津田塾大学創設者）や、河井道（恵泉女学園創立者）も通っていた大学です。

実はヴォーリズと満喜子の結婚には、民族の違い、身分の違いなど両家から強い反対がありました。満喜子の兄・恵三の、義母である広岡浅子が、「信仰があれば、如何なる困難にも乗り越えられる」と賛同したことで、結婚へ道が開かれました。広岡浅子は、NHKの朝のドラマ「あさが来た」（2015年放映）のヒロインのモデルとなった人物で、晩年



にクリスチャンになった実業家です。

ヴォーリズは、米国との戦争に突入する前に米国に帰国するか、日本に留まり続けるかの決断を迫られます。彼は、日本に留まることを決意し、1941年1月日本に帰化し、一柳米来留<sup>めりる</sup>に改姓します。米来留は、米国から来て日本に留まるという意味です。

日本人を愛し、日本人女性と結婚し、日本に永住することを希望するヴォーリズの選択でした。当時敵性外国人と烙印を押され、多くの米国人宣教師が帰国を余儀なくされている状況において、異例の勇氣ある決断でした。

## ヴォーリズの死

1957年ヴォーリズは、クモ膜下出血に倒れ、7年間を病床ですごし、1966年5月7日に召天

しました。享年83歳でした。葬儀は近江兄弟社と近江八幡市民の共同葬儀として執り行なわれました。彼は、1958年「近江八幡名誉市民第一号」の榮譽を受けていましたが、彼が近江八幡市民によっていかに愛されていたかを示しています。

ヴォーリズは、日本に来て成功した独立伝道者でした。しかし彼が晩年に書いた自叙伝のタイトルは『失敗者の自叙伝』です。そこに彼の成功した人生の秘訣があります。

「失敗は、神が私たちを謙虚にするため与え給うものであった。神は、私たちの能力や知識が、事成就するためではなくて、私たちが神の器となりきる時、私たちを通して働き給う聖霊が、これを成し給うという事を知らしめようとの、ご計画である。そして私たちの計画にまさる結果を、常に与え給うのである。」

### 【参考文献】

一柳米来留「失敗者の自叙伝」

(近江兄弟社湖声社、1970年)

# コスパ、タイプパの時代に思う

広本 研一

表題の単語をお聞きになったことがあるでしょうか。「コスパ」は、かなり前から使われていますが、「コストパフォーマンス」の略で、対費用効果のことであり、「タイプパ」は、—私も最近知ったのですが、「タイムパフォーマンス」のことだそうです。つまり、対時間効果ということです。

最近では映画や音楽が、定額で大量に配信されるようになりました。そこで若い人たちは自分がつまらないと感じたところは、機器の機能を使って飛ばしたり、倍速で視聴したりしているそうです。彼らは、大量の作品をいかに効率的に鑑賞するかという観点からそうしているのでしょうが、作り手にとっては無駄なところは一秒たりともないわけで、自分の精魂込めた作品がそのような扱いを受けて、忸怩たる

思いをしている制作者の方のコメントが、ある記事に紹介されていました。

様々な情報がおびただしくあふれる社会で、可能な限り多くのものを安く、時間をかけずに吸収し、楽しめるかを求める、まさにコスパ、タイプパの時代の象徴を見るような気がしました。

確かに効果に見合わない費用や時間は、かけないに越したことはありませんが、すべてがコスパやタイプパだけで判断されるとしたら、私たちは大切なことを置き去りにしているのかもしれない。

ところで聖書の中に次のようなみことばがあります。



「彼らは、あらゆる不義、悪、貪欲、悪意に満ち、ねたみ、殺意、争い、欺き、悪巧みにまみれています。また彼らは陰口を言い、人を中傷し、神を憎み、人を侮り、高ぶり、大言壮語し、悪事を企み、親に逆らい、浅はかで、不誠実で、情け知らずで、無慈悲です」(ローマ人への手紙1章29〜31節)。

私たちの周りの世界を見渡せば、これらのことで満ちているのではないのでしょうか。そして、どのような人であっても、これらの一つや二つは自分の心の中にあることを認めざるを得ないのではないのでしょうか。なぜなら最初の人アダムとエバが神様の命令に背き、罪と死が人類の中に入ってきたからです。そして人間は墮落し、神様の栄光を汚す存在となってしまうました。

神様は全能の方なので、そのような人類をさっさと消し去って、また新しい、罪を犯さない人類を創造された方がよほど効率的なのではないのでしょうか。しかし神様はそのようにはなさらなかったのです。

聖書にはその神様について、このように記しています。

「私たちすべてのために、ご自分の御子さえも惜しむことなく死に渡された神」

(ローマ人への手紙8章32節)

またこのようにも記されています。

「キリストは、すべての人の贖いの代価<sup>あがな</sup>として、ご自分を与えてくださいました。これは、定められた時になされた証しです。」

(テモテへの手紙第一・2章6節)

父なる神様が、私たち人間を救うために支払ってくださった代価は、かけがえのない御子イエス・キリストご自身でした。神様にとってこれ以上、高価な犠牲はありません。

常識的に考えれば、このような人間のために、ご自分にとって最も大切な御子のいのちを犠牲にすることは、(不謹慎な表現かも知れませんが)「コスバ」

を度外視する行為ではないでしょうか。

また「タイパ」という面から考えれば、人類に罪と死が入ってからおよそ四千年間、神様はイエス様の十字架という「定められた時」を、ご自身の計画の中でじっと待っておられました。

そして紀元一世紀にイエス様は、罪と死の奴隷である私たちを贖う（買い戻す）ために、自ら進んで十字架の死を味わってくださいました。その後の二千年間、神様は一人でも多くの方がイエス・キリストを信じて救われるように、忍耐をもって、さばきの日を延ばしておられるのです。

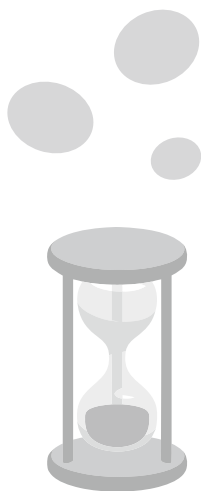
このように、父なる神様と御子イエス様が私たちのためにしてくださったことは、タイパとは正反対のことです。

自分のことを考えると、「私は神の御子のいのちをもって贖うほどに価値ある人間だろうか」と疑問に思わざるを得ません。しかし、神様はそのことを良しとしてくださったのです！

神様はコスバもタイパも最優先される方ではありません。ぜひ父なる神様と御子イエス様がこのような方であることを覚えていただきたいのです。

本当に大切なことは、コスバやタイパだけでは判断できないものです。もし皆さんが家で聖書を読んでもおられるにしても、書籍代や読む時間が取られると思います。また福音集會に集っておられるのであれば、集會所への交通費や駐車代、往復の時間がかかると思います。しかし、それは皆さんがイエス様を救い主と信じて、永遠の滅びから救われるために必要なものであって、決して無駄にはならないものです。

ぜひ続けて真理を求めてくださるように、心からお願いいたします。



# 人生のあらし

M・中野

あらしの時に 出回る者が いるだろうか  
そうじゃないだろう

できる限り 家の中に入り 戸締りをし  
あらしが過ぎ去るのを 待つだろう

人生のあらし

その時は すべてのものの造り主 厳なる神に  
身をゆだねるべき

自分の悟りに頼って 動きまわってはいけない  
減びてしまうから

神のもとに 身をゆだねていようではないか

友よ 人生のあらし  
―それは一生続く―

減ぶことのないために  
神のところに 身を寄せようではないか

## みちしるべ9月号 第910号

令和6年9月1日（毎月1回1日）発行

発行所 伝道出版社  
〒183-0056 東京都府中市寿町 2-8-9  
TEL 042-366-7760  
FAX 042-366-7790

編集人 伝道出版社 編集部  
<https://dendoshuppan.shop-pro.jp/>  
印刷所 株式会社 共同印刷所

私の娘が3歳のころの話です。娘がお絵かきをしていて、鉛筆を削りました。私とその削りカスを私が捨てようとする、娘は「ダメ、それ捨てないで!」と言いました。理由を問うと、「きれいだから」と。

たしかに六角形の鉛筆から出た削りカスは、規則正しく波を打ち、それが二重三重にと巻かれて、例えるなら一輪の花のように見えてきました。自分にはもう不要となったもの、ただの削りカスとしか思っていなかったものが、3歳の子どもの目には美しい物のように映っていたのかと、その感性に驚かされました。

人は同じものを見ていても、見る人の見方によって感じ方や価値観は異なります。読者の皆さんの中に、自分には価値がないとか、自分は誰からも必要とされていないなどと、感じる時があるかもしれません。そのような時、聖書の神様に目を向けてください。神様はあなたに対しこう仰っています。

「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している」  
(イザヤ書43章4節)

仮に他の人から価値がないと判断されることがあったとしても、あなた自身は、神様から特別な価値を認められている存在なのです。そのことを是非お知りになってください。  
(山下勝利也)

なお、くわしく聖書について知るために、下記の所へぜひおいでください。

